

令和2年度

海と渚環境美化・油濁対策機構「なぎさの環境基金」助成事業

実施報告書

歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る事業

実施団体：海・川・山 環境保全研究会 (SRME)

1. 事業目的

近年関心が高まっている漂着ゴミの現状や海底・海岸清掃を通して藻場・魚・人間を守る。
少子化により過疎化して行く日御碕地区の海の素晴らしさを若者に伝えたい。

2. 事業内容

1) 地域住民・協力団体の方々と海底・海岸清掃を行い、その成果をもとに、現在の日御碕の海を画像及び映像で紹介して、今後の環境美化、水産資源保護及び海岸環境の保全整備に関する活動を行い「海は自分達で守る」ための啓蒙活動を行う。

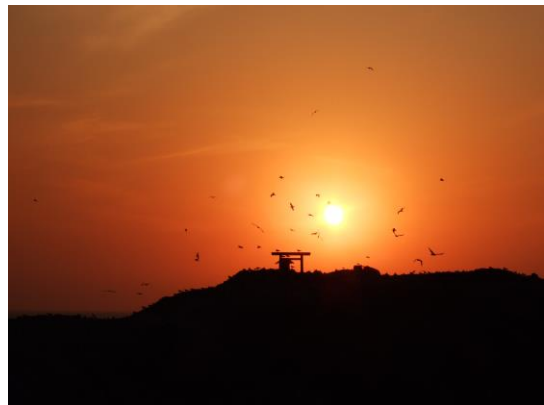
「海底清掃の様子」



2) 大社町日御碕神社沖には、約20年前地元ダイバーにより発見され「海底遺跡」と呼ばれるスポットがあり歴史ある日御碕神社と共に幅広く紹介していく。これにより少子化や高齢化により過疎化して行く日御碕地区の魅力を多くの人々に再発見してもらうきっかけを提供し、海を通して若者たちに夢ある海づくり「海は自分達で守る」を啓発していく。



日御碕神社

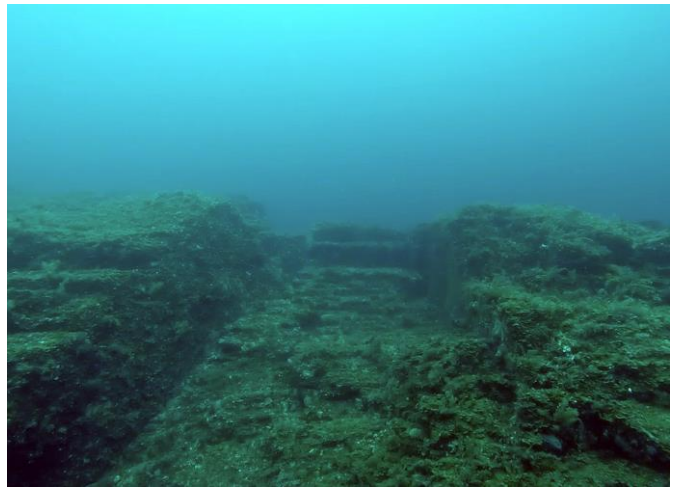


現在でも聖域になっている「経島」

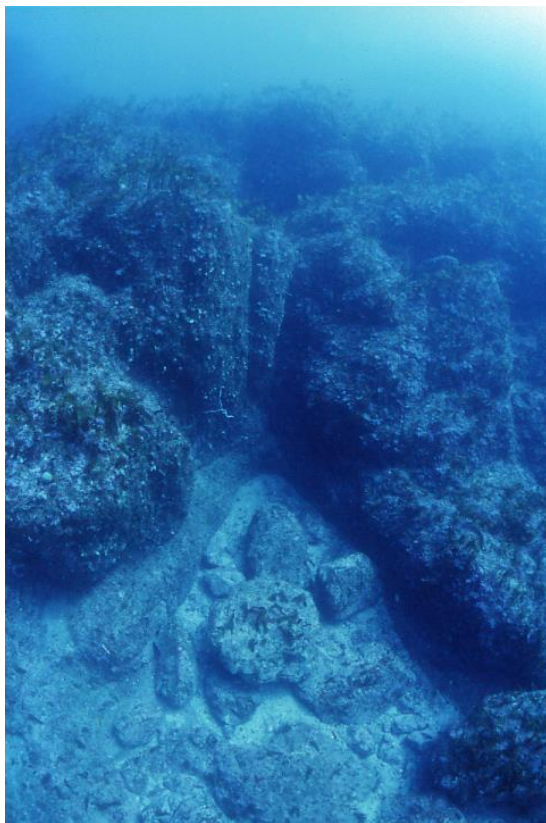


「タイフ」水深 20m にある「参道」

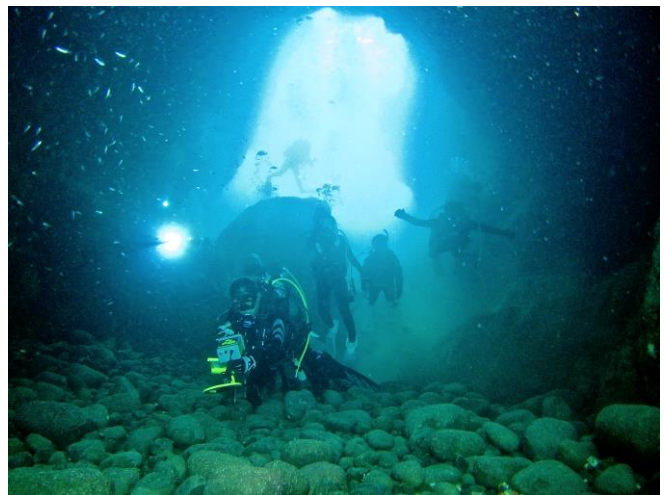
※「タイフ」P5 参照



水深 25m にある「階段」



水深 25m にある「亀石と滝の跡」



水深 12m にある神殿の様な「洞窟」

- 3) 地元との交流会の開催判断が新型コロナの国内感染者が増える中、緊急事態宣言が発令され開催を自粛すべきか悩みましたが、人数制限を行い出来る限りのコロナウイルス対策、マスク着用・アルコール消毒・検温・ソーシャルディスタンスを行い開催する事にいたしました。

日御碕地区住民の皆様への「案内文」を215軒に配布した。

日御碕地区住民の皆様へ

「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」 と「日御碕海底遺跡」についての交流会



内田律雄

うちだ・りつお
一九五一年 松江 生。
日本大学法学部政治経済学科卒業。
青山学院大学文学部史学科
(考古学専攻)卒業。
熊本大学博士(学術)。
海洋考古学会代表。
【編著書・論文等】
『出雲国造の祭礼とその世界』(一九九八)
『古代日本の海神』(二〇〇九)
『発掘された出雲国風土記の世界』(二〇一七)

私たちAQUA工房は、「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」をスローガンに日御碕地区の海浜・海底の環境保全活動を行ってきました。その中で日御碕沖に沈む海底の様子を様々な角度から地域の活性化になる情報も発信してきました。それがメディアにも取り上げられ日御碕の海底遺跡の存在が少し知られたかと思えます。

2018年10月13日に古代出雲歴史博物館で行われた「神々の国と神事と祭礼」の講演の中で、海洋考古学会代表 内田律雄先生(元島根県埋蔵文化センター学術博士)が、経島沖に沈んでいる「経島〜タイワ」にかけての地形を正式に海底遺跡と発表され、昨年書籍も発刊されました。

この度、再び私たちは海底遺跡の情報を地域の皆様にお伝えして「地域の新たな財産」と「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と言う事を認識して頂きたく、この交流会を開催させていただきます。

今回の交流会で「日御碕の海底遺跡」を実感して頂き、生まれ育った日御碕地域の自然・歴史を住民の皆様共に守っていきたくと思います。

ご連絡お待ちしております。

このコロナ禍での講演になりますので感染予防をしっかりと行うため、マスク着用、密にならないように人数にも制限をさせていただきますので、ご参加の際はお電話でのお申し込みをお願いいたします。

1/24(日) 13:00~15:00

会場：日御碕コミュニティセンター

☆ 問い合わせ、お申し込み：090-1445-8237 D.S.AQUA 工房
岡本

- 4) 交流会前半は海・川・山 環境保全研究会会長岡本哲夫氏から、海を守っていくには川も山も守らなければならないことや「森が豊かになればその栄養が川を伝って海が豊かになる、海を守るためには小さくても何か出来ることがある」と話され、後半には海洋考古学会代表内田律雄先生(元島根県埋蔵文化センター学術博士)が、2018年10月13日古代出雲歴史博物館で行われた「神々の国と神事と祭礼」の講演の中で、経島沖に沈んでいる「タイワ」の地形を正式に海底遺跡と発表され、昨年暮れに書籍も発刊された事もあり日御碕の「地域の新たな財産」と「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と言う事を認識して頂きました。

※「タイワ」とは

日御碕神社は「日沈宮」夕日を拝んでる神社、伊勢神宮は「日昇宮」朝日を拝んでる神社で、2社は対の神社になります。現在も日御碕神社の真西にある、神主しか入れない聖域の島「経島」で夕日の神事が行われています。神社のよると古代は「経島」の沖にある「タイワ」と言う島(今は水深4mに沈んでいる瀬)で行われていたと言う言い伝えがある、海の中の「瀬」になります。

「交流会の様子」





「内田先生の講演」の様子



5) 「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と「日御碕海底遺跡」の交流会が無事開催でき、参加者の方々が改めて日御碕の歴史を出雲風土記の中から新しい真実を学べた事を大変喜んでおられました。日御碕神社に由来する海を自分達で守りながら、いままで口伝えなどの事柄を古代の書物、海中の地形と合わせて「海は自分達で守る」と言う実感が持てた交流会になりました。

・ 海底清掃人員 15名 ・ 交流会参加者 28名